

# 衆院補選から見る 日本政治のいま

ふしの  
じゅんき  
伏野 潤紀  
(しがく総合研究所)

2024年4月28日、衆院3補欠選挙の投票が実施され、いずれも立憲民主党が勝利した。これまで議席を有していた自民党には厳しい結果となり、岸田文雄首相の政権運営は再考を迫られている。政権交代の可能性があると危惧する声も出るなか、今回の選挙結果などから政治の現状を考察する。

## 衆院3補選、自民が全敗

崎3区と東京15区は、谷川氏のパーティー券問題や柿沢氏の選挙買収問題といった「カネ」の不祥事が選挙のきっかけでもある。こうした自民党内の政治資金をめぐる問題から岸田政権の支持率は2割程度に沈んでいる。「保守王国」とされてきた島根で議席を

落とした要因のひとつとみられ、岸田首相が模索してきた衆院解散をめぐる戦略にも影響が及ぶ可能性が高い。

## 立憲民主党が野党では 頭一つ抜けた格好

補選のうち、注目を集めたのが東京15区だ。当初は自民党が推薦を出すと言われていた乙武洋匡氏の勝利を確実視する向きもあったが、推薦見送りが決まると混戦模様が強まった。日本維新の会の金澤結衣氏、無所属の須藤元

4月28日投票の衆院3補選は、柿沢未途氏辞任に伴う「東京15区」、谷川弥一氏辞任に伴う「長崎3区」、細田博之前衆院議長逝去に伴う「島根1区」で争われた。議席を有していた自民党は、島根で立憲民主党との一騎打ちに敗れ、長崎と東京は候補者を擁立しない「不戦敗」となった。

自民党が敗北した理由のひとつが「政治とカネ」をめぐるスキャンダルだ。そもそも長気元参院議員など計9人が立候補し、結果として立憲民主党の酒井菜摘氏が当選。自民党候補が不在のなか、立憲民主党が野党内で頭一つ抜けている現状を示した。

東京15区では候補者が乱立

当落	立候補者	票数
◎	酒井菜摘 (立民)	49476
	須藤元気 (無所属)	29669
	金澤結衣 (維新)	28461
	飯山陽 (諸派)	24264
	乙武洋匡 (無所属)	19655
	吉川里奈 (参政)	8639
	秋元司 (無所属)	8061
	福永活也 (諸派)	1410
	根本良輔 (諸派)	1110

## 政党支持率では「自民1強」

「立民完勝」となった今回の補選だが、今後の政権交代はあり得るのだろうか。そのヒントとなるのが政党別の支持率の推移である。2024年3月分の時事世論調査によると、自民党が17・7%である一方、立憲民主党が4・7%、日本維新の会が3・6%、公明党が2・8%、共産党が1・6%となっている。岸田政権の支持率が低迷しているのは事実だが、自民党の支持率に並ぶ野党が存在しないのも事実だ。

実際に政権交代が起きた、2009年のデタを見てみよう。当時の麻生政権の支持率は20%前後で不支持率のほうが高く、現在とそう変わらない水準だ。2009年7月分の時事世論調査からみる政党支持率は、民主党

時事世論調査をみると、当時の宮澤喜一政権の支持率は10%程度と低い状態が続いていた。政権交代間際の1993年ごろの政党支持率をみると、自民党が30%前後で推移しているが、日本新党や社会党、社民党などの野党はいずれも10%程度またはそれ以下の水準にある。政権支持率と政党支持率の関係で見ると、現代は1993年のような「政権支持率は低い、自民党支持は他の野党より高い」という状況に近似している。

## 政権交代には与党に対抗

### できる野党の協力が不可欠

それだけに政権交代の可能性があるのは、野党が共闘した場合に限られそうだ。足元の状況で野党が単独過半数を目指すのは現実的ではない。

(当時)は18・6%、自民党は15・1%と、自民党の支持率を民主党が上回る。

つまり、足元の政党支持率を見ると依然として「自民1強」であることがうかがえ、自民党に他の野党が追従するような状況にはない。2009年のように、野党が単独で衆院の過半数を占めるような歴史的な政権交代が実現する可能性は低そうだ。

## 現在の状況は1993年に近似

自民党は1993年にも野党転落を経験している。当時も現在と同様に「政治とカネ」をめぐる疑惑が明らかになり、金丸信自民党副総裁が逮捕されるなど世間を揺るがした。結果、1993年夏の衆院選で政権交代が起こり、日本新党(当時)の細川護熙氏率いる非自民政権が誕生した。

ただ、足元では野党共闘の足並みはそろっていない。野党第1党の立憲民主党は野党同士の協力を促す求心力に乏しいうえ、日本維新の会は今回の補選でも立憲民主党を厳しく批判しており、歩み寄りには難しい。国民民主党やれいわ新選組などイデオロギーの異なる多数の野党が乱立し、自民党とはなく野党同士で争っているのが現在の日本政治である。日本では1955年の自民党結党以来、長らく自民党が政権与党を担う時代が続いてきた。自民党に政権交代しうる現実を突きつけることは、民主主義を健全に機能させて政治に競争を促すためにも、そして自民党をはじめとする政権与党に緊張感を作り、緩みを生まないためにも重要だ。既存の政権に代わる選択肢となりうる野党が今ほど求められる時はない。

